

第2学年 美術科 年間学習計画と評価

1 教科目標等について

目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。
教科書	美術2・3（光村図書）
副教材	美術資料（秀学社） レタリング・ポスターの資料（正進社）

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 - 意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
- スケッチブック - アイディアスケッチ - ワークシート - 授業の様子や発言内容 - 作品 - 定期テスト	- スケッチブック - アイディアスケッチ - ワークシート - 授業の様子や発言内容 - 作品 - 定期テスト	- スケッチブック - アイディアスケッチ - ワークシート - 授業の様子や発言内容 - 作品

3 学習についてのアドバイス

学 校	- 自分の感性や個性を大切にして、美術の活動に取り組みましょう。 - 主題を考え、これまでに学習したことを活用して、制作に取り組みましょう。 - 主題をアイディアスケッチや文章に表現して、構想を練りましょう。 - 授業の時間内で作品が完成するように計画性を持ち制作に取り組もう。 - 作品について感じたことを積極的に話し合いましょう。 - 鑑賞の学習では、作者の心情や表現の意図と工夫について考えましょう。
家 庭	- 生活の中で、「きれいだな」「すてきだな」「おもしろいな」と思った絵やデザイン、写真、形などをスケッチしたり写真に撮ったりしてアイディアを貯めておきましょう。 - いつも見ているもの、身近なものでも見る角度を変えると新しい発見があります。普段から「見方を変えて見る」ことをしてみましょう。

4 主な単元・教材及び目標

※単元等や目標については、主なものを明記しています。

月	主な題材・教材等	主な学習目標
前期	○オリエンテーション	○2年生の美術科ではどのようなことを学ぶのかを知り、この1年で学ぶことや、これからの学習の見通しをもつ。
	○「最後の晩餐」を鑑賞しよう（鑑賞）	○構図や色彩、作風などに着目して、作品の特徴を捉える。 ・作者の考え、表現の意図や工夫をもとに見方や感じ方を深める。作品を鑑賞する活動に主体的に取り組む。
	○季節感のある暮らし（彫塑）	○形や色彩、材料などが見る人や使う人の感情に与える 効果を理解し、意図に応じて見通しをもって表す。 ・季節感や、四季の風物から考えたことをもとに主題を生み出し、心豊かな表現の構想を練る。 ・自分の考えや見方を深めながら、季節感を取り入れた作品の構想を練ったり、鑑賞したりする活動に主体的に取り組む。
	○日本の絵画を楽しむ五つのキーワード（鑑賞）	○形や色彩、構図、作風などに着目して、作品の特徴を捉える。 ・日本の美術に独特の自然観や美意識、ユーモアなどを捉えることで、日本の美術文化への見方や感じ方を深める。 ・自分の見方や感じ方を深めながら、作品を鑑賞する活動に主体的に取り組む。
	○メッセージを伝える	○形や色彩などが見る人に与える効果を理解し、見通しをもって表す。 ・伝えたい内容について考えたことをもとに主題を生み出し、効果的な表現の構想を練る。 ・自分の考えや見方を深めながら、デザインの構想を練ったり、作品を鑑賞したりする活動に主体的に取り組む。
後期	○暮らしの中の工芸（工芸） ・篆刻	○篆書体に興味を持ち、その美しさを生かしながら、デザインする。 ・材料の持ち味や使う場面などから主題を生み出し、持ち手のアイディアスケッチをする。 ・主題を基に材料や用具の特性を生かしながら制作する。 ・互いの作品を鑑賞し合い、よさや美しさ、表現の工夫などについて話し合う。
	○ゴッホと浮世絵（鑑賞）	○形や色彩、構図、作風などに着目して、作品の特徴を捉える。 ・日本の美術に独特の自然観や美意識、ユーモアなどを捉えることで、日本の美術文化への見方や感じ方を深める。 ・自分の見方や感じ方を深めながら、作品を鑑賞する活動に主体的に取り組む。
	○地域の魅力を表すパッケージ（デザイン）	○形や色彩、材料などが見る人や使う人に与える効果を理解し、見通しをもって表す。 ・地域の魅力から感じ取ったことや考えたことをもとに主題を生み出し、効果的な表現の構想を練る。 ・自分の考えや見方を深めながら、デザインの構想を練ったり、作品を鑑賞したりする活動に主体的に取り組む。